

チリ産ブドウは世界市場の供給減少で勢いを取り戻す

The Grape Reporter 2023年11月21日

チリ産ブドウの出荷シーズンが数週間前に始まり、国の北部地域で最初に収穫されている。現在の状況と今シーズンの予測について、FreshFruitPortal.com は業界の主要な関係者に話を聞いた。

チリ果実協会(旧ASOEX)のブドウ委員会に所属するフルテラ アグアス ブランカス社のカタリナ・コーエン営業販売部長は、このセクターの出荷量を前年比5.2%増の合計6,300万箱と予測していると述べた。

ウヴァノーヴァ社のドラゴミール・ルブティック副社長は、「今シーズンは幸先の良いスタートを切っていると思う。5,700万箱近くになると思うが、これは予想の範囲内である。シーズンが非常に良いものになるだろうという前向きな期待はあるが、私は疑問を持っている。それは、まだ長い道のりがあり、気象に関連して大きく驚くようなことが起こる可能性があるためだ」と付け加えた。

サブソール社のアンドロ・ヴィダル販売部長は同様に、果実の品質は良好であるとしつつ、「コピアポバレー地域ではかなり生育が進んでおり、第三州(アタカマ州)ではずっと遅れていた昨シーズンよりも約4週間進んでいる」と述べた。

フルテラ サンタマリア社のクリスチャン・コルシオン統括部長は、昨年と比べて10日早くスタートを切るのを確認することができたと述べ、「今のところ、果実は良いようで、サイズは良好である。植物体内では様々な生育段階が観察され、数段階を経る必要があるため、収穫はゆっくりになる」と指摘した。

新品種

新しい品種については、ウヴァノーヴァ社のラファエル・ドミンゲス社長は、白ブドウ品種が好調だと言い、「今シーズン弊社が取り扱っている主な白ブドウ品種は、オータムクリスプ、スイートグローブ、ティンプソン、アツラ15及びアイボリーである。赤ブドウ品種では、ティムコが後退し、アリソンとスイートセレブレーションが良い品種として定着した。風味の面では、コットンキャンディー品種は作るのが難しいが市場では非常に人気がある。また、キャンディハーツ、キャンディクランチなどの他の品種にはニッチな需要がある」と述べた。

市場

ドミンゲス社長の説明によると、米国は通常、チリの生食用ブドウ出荷の半分を占めており、最大の輸出市場となっている。

同社長は、「さらに、ペルーではハリケーンの影響で国内市場への供給量が少なく、その結果2千万~3千万箱減少すると見られる。これは間違いなく我々(チリ)にとって良いことである。ペルーではまた、エルニーニョの影響でも出荷量が減り、房の品質や果実の状態に影響が出ている」と言う。

ドラゴミール・ルブティック副社長は、市場はかなり昨年と同様になりそうだとし、「弊社の主な市場は、引き続き米国及び極東であり、それよりも小規模ではあるがヨーロッパもそうである」と述べた。

今年は米国のブドウ生産量も減少すると予測されており、カリフォルニア州では3千万箱の減少が見込まれている。また、ペルーでは28%の下落が見られ、チリの生食用ブドウ産業は勢いを取り戻すことを期待している。

コーエン氏は、これにより「チリ産の果実が市場に届いて販売され、過剰在庫を回避し、健全で安定した価格を維持することができる。もう一つのポイントとして、ペルーの出荷シーズンが3月末から4月で終わるので、我々のチャンスになる期間が1か月半あることになる。チリは、品質と新しい品種に支えられたそのブランドで、自らを再配置しなければならない」と述べた。